



# フロイント産業株式会社

## 個人投資家様向け説明会資料

**STANDARD**  
TOKYO  
(証券コード 6312)

2023年9月6日  
合同IR説明会  
管理本部経理部

# 目次

---

- I .会社概要
- II .中期経営計画及び重点施策
- III .今期の業績予想及び株主還元
- IV .参考資料

# 社長ごあいさつ

## “ONE FREUND” 価値創造の事業経営を目指して

当社は、錠剤のフィルムコーティング技術に着目し、世界に先駆けて「自動フィルムコーティング装置」と「フィルムコーティング液」の開発に成功、1964年に創業いたしました。

以来、「創造力で未来を拓く」を企業理念に、医薬品および食品メーカーを主要ユーザーとし、積極的に事業を展開してまいりました。

ハードである機械事業（造粒・コーティング装置等）とソフトである化成品事業（医薬品添加剤、食品品質保持剤等）のシナジー効果を発揮し、業界のリーディングカンパニーとして、日本国内はもとより、海外においても高い評価と信頼を得ております。

これからも経営ビジョンに掲げている「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献」することを追求し、海外グループ会社とのシナジー効果を最大限に発揮して、必要とされている技術や製品を生み出し、世界で十分に薬が行き届いていない地域まで薬を届ける企業となるべく邁進してまいります。

代表取締役社長 伏島 巖



# 登壇者について

## 【経歴】

- 1977年 4月 (株)富士銀行(現(株)みずほ銀行) 入行
- 1996年 1月 同行 米国Fuji Securities Inc. 副社長
- 2003年 5月 ライオン(株) 経理部財務担当部長
- 2006年 4月 同社 IR室長
- 2007年 5月 シミック(株)(現シミックホールディングス(株))  
取締役・執行役員経営統括部長
- 2013年 5月 デクセリアルズ(株) 人事・総務・広報・知財担当執行役員
- 2016年 1月 当社入社 事業推進部長
- 2017年 3月 当社 海外営業本部副本部長
- 2019年 9月 当社 執行役員 経営企画部長  
フロイント・ターボ(株) 取締役(現任)
- 2020年4月 FREUND-VECTOR CORPORATION Director(現任)
- 2020年 5月 当社 取締役 経営企画本部長
- 2020年11月 Cos.Mec S.r.l Director(現任)
- 2021年5月 当社 常務取締役
- 2023年3月 当社取締役 CFO 管理本部長



**若井 正雄 (わかい まさお)**  
取締役CFO  
Freund-Vector Corporation, Director  
フロイント・ターボ(株) 取締役  
Cos.Mec Srl, Director



## 〈社名の由来〉

フロイントはドイツ語で“友達”を意味します。当社の創業者（現 名誉会長）が創業の構想を友人と考えている中で、二人はFreund（友達）であったので、フロイントと名づけました。ロゴは、“友”という文字のくずし字をデザイン化したものです。

## 〈企業理念〉

創造力で未来を拓く<sup>®</sup>

## 〈Vision〉

フロイントグループは、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します。

---

---

# I .会社概要

---

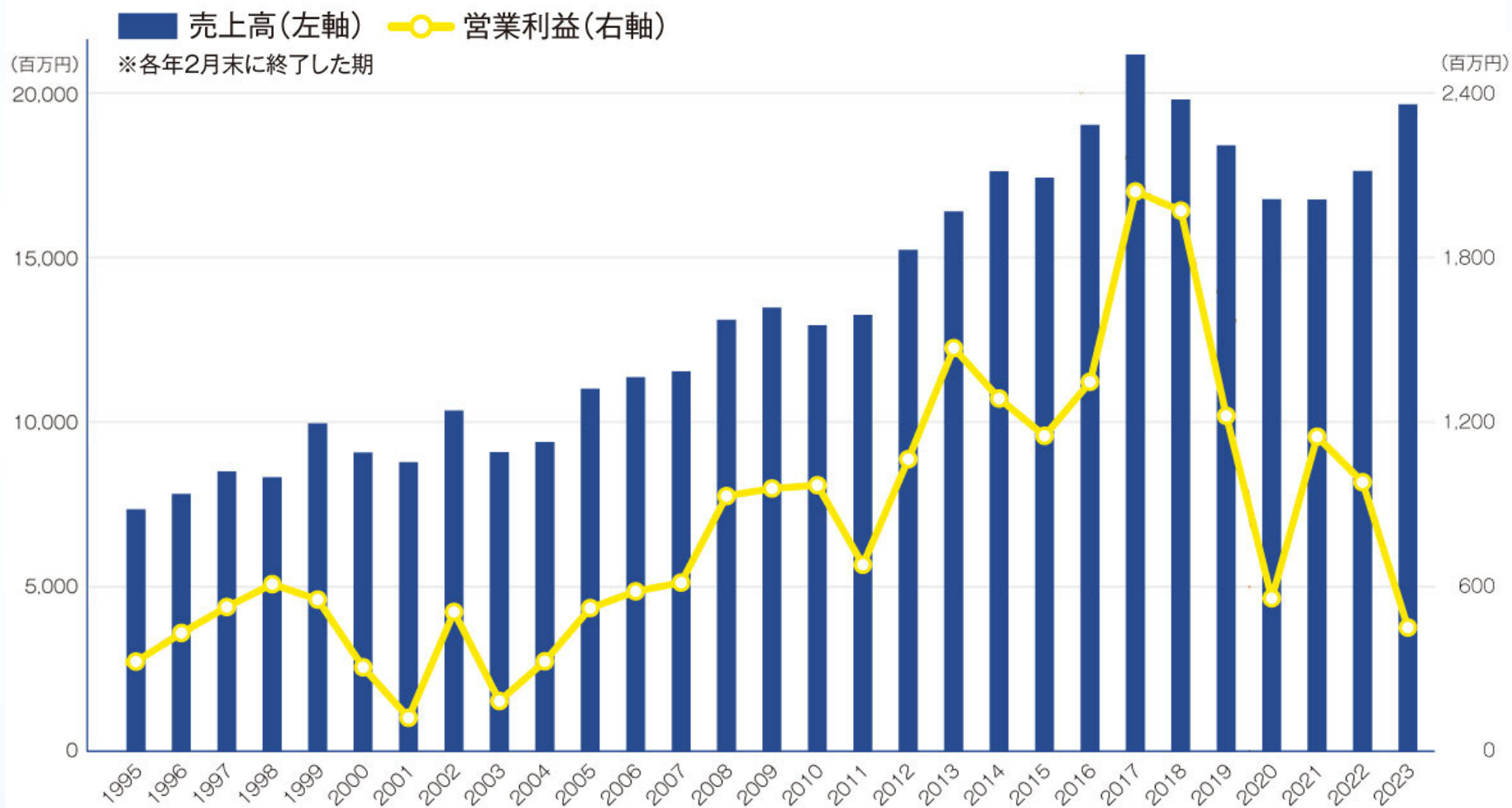
---

# プロフィール

- 社名 : フロイント産業株式会社
- 設立 : 1964年4月
- 代表者 : 代表取締役社長 伏島 巖
- 所在地 : 東京都新宿区西新宿六丁目25番13号
- 資本金 : 10億3,560万円 (2023年2月末現在)
- 売上高 : 196億円 (2023年2月期:連結)
- 従業員数 : 482名 (2023年2月末現在:連結)
- 事業内容
  - ・機械事業・・・造粒・コーティング装置等の製造販売
  - ・化成品事業・・・医薬品添加剤、食品品質保持剤等の製造販売
- グループ会社 : Cos.Mec s.r.l.  
Parle Freund Machinery Private Limited  
Freund-Chineway Pharmaceutical Technology Center Co.,Ltd.

# 業績推移

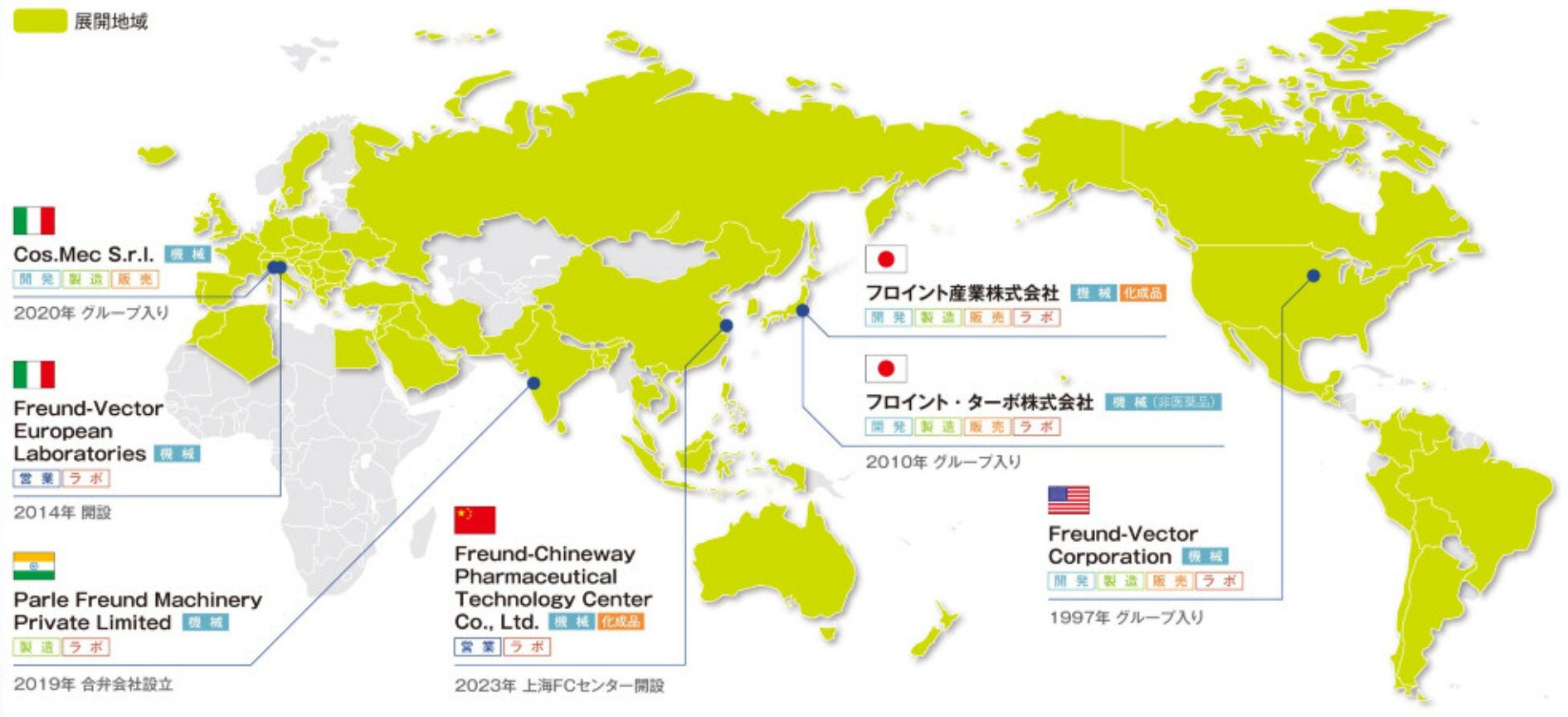
## 売上高・営業利益推移





# 当社グループ各社とR&D拠点

## 独創的技術でのグローバル化を積極的に推進



# 当社グループ各社とR&D拠点

## 独創的技術でのグローバル化を積極的に推進



# ビジネスモデルの特徴は「Pen」と「Ink」

## 1. 機械部門 (Pen)

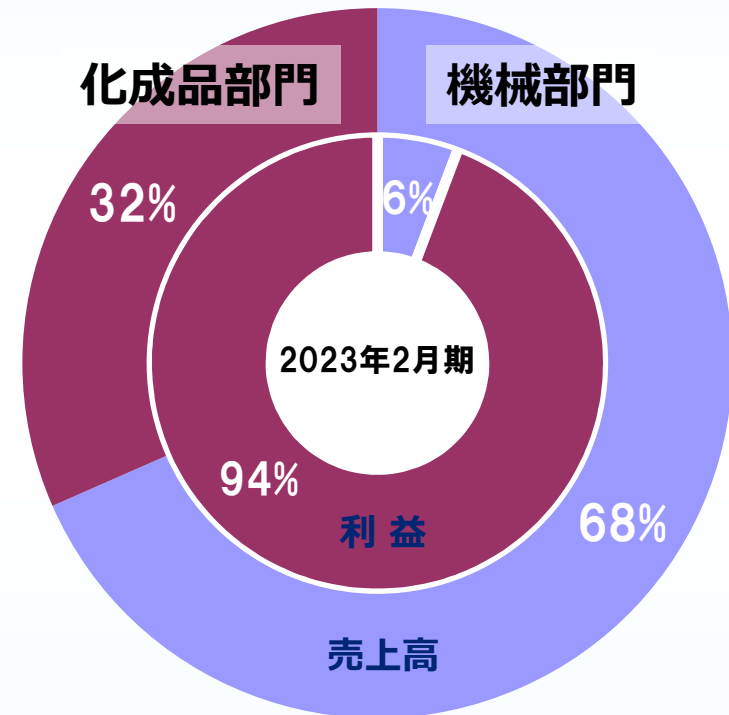
- 医薬品、食品、ファインケミカルなどのさまざまな分野向けに造粒、コーティング装置などを製造・販売。
- コーティング装置の国内販売シェアはトップ。グローバルは日本・米国・インド・イタリア・中国の5極体制で展開も加速。世界で製剤技術と機械装置を唯一共有する。
- 造粒・コーティング技術に粉碎・分級技術を融合させることで産業向け装置の拡販も注力。

## 2. 化成品部門 (Ink)

- 医薬品添加剤、食品品質保持剤、健康食品などを製造・販売。
- 医薬品添加剤は、医薬品添加剤GMP<sup>※1</sup>自主基準に従って生産。
- 食品品質保持剤は、さまざまな食品の品質保持に利用され、安全な食生活に役立つ。
- 造粒・コーティング技術を用い、ユーザーとの共同開発で栄養補助食品やシームレスミニカプセルを商品化。

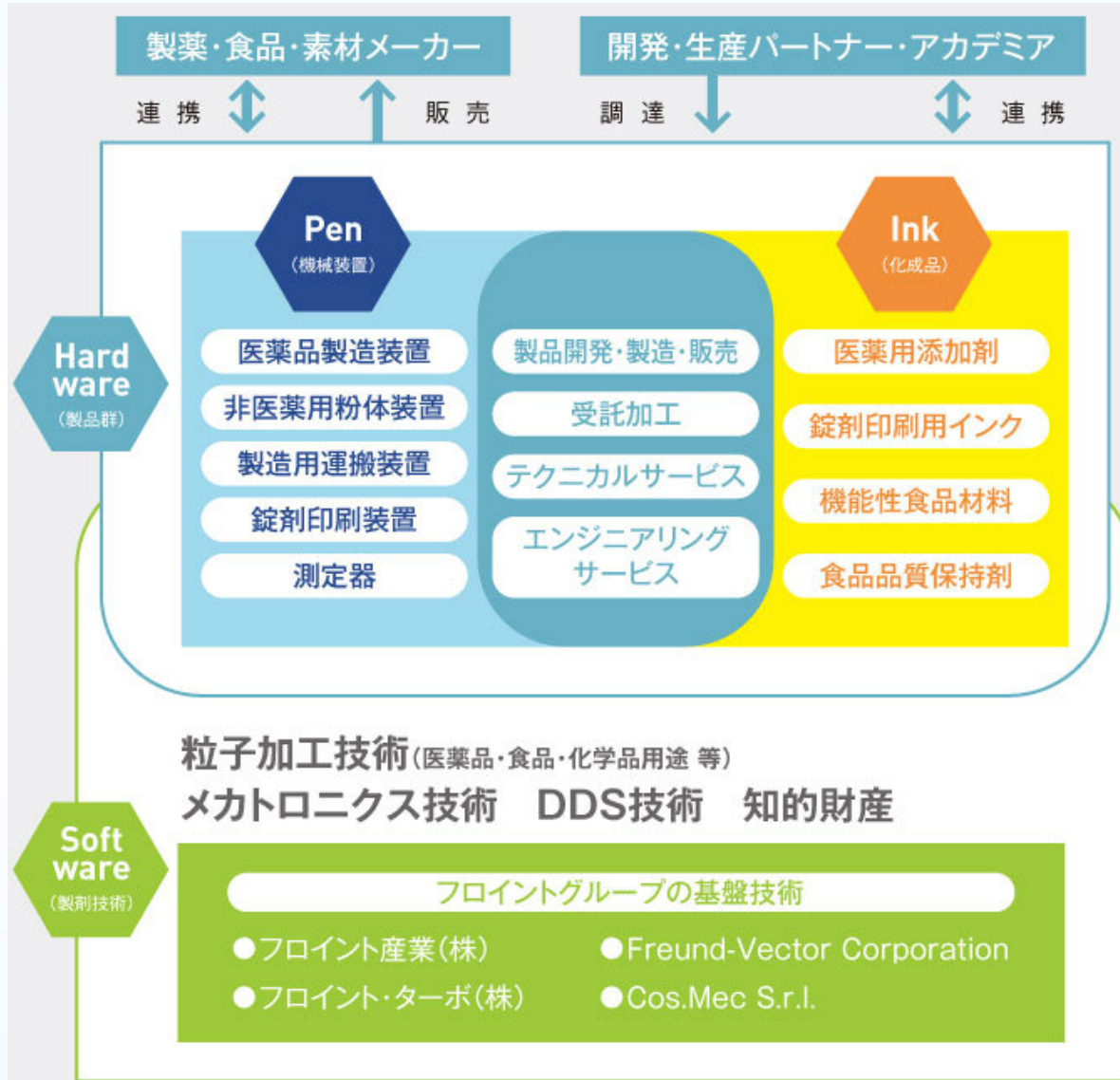
※1 GMP : Good Manufacturing Practice

## セグメント別 売上高及び利益構成



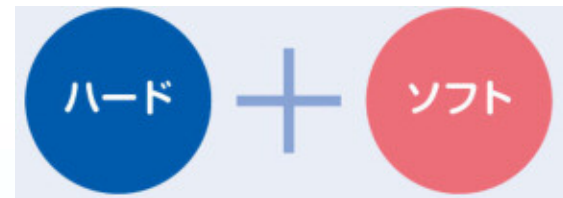
連結売上高 196.5億円  
連結営業利益 4.5億円

# フロイント産業のビジネスモデル



## 機械装置「ペン」と化成品「インク」の事業モデル化

当社は、創業当初より、医薬品分野において、機械装置「ペン」と化成品「インク」を共有する事業モデルをとおり、競合他社との差別化を図ってまいりました。今日、医薬品製造装置業界におけるリーディングカンパニーの地位を築いております。

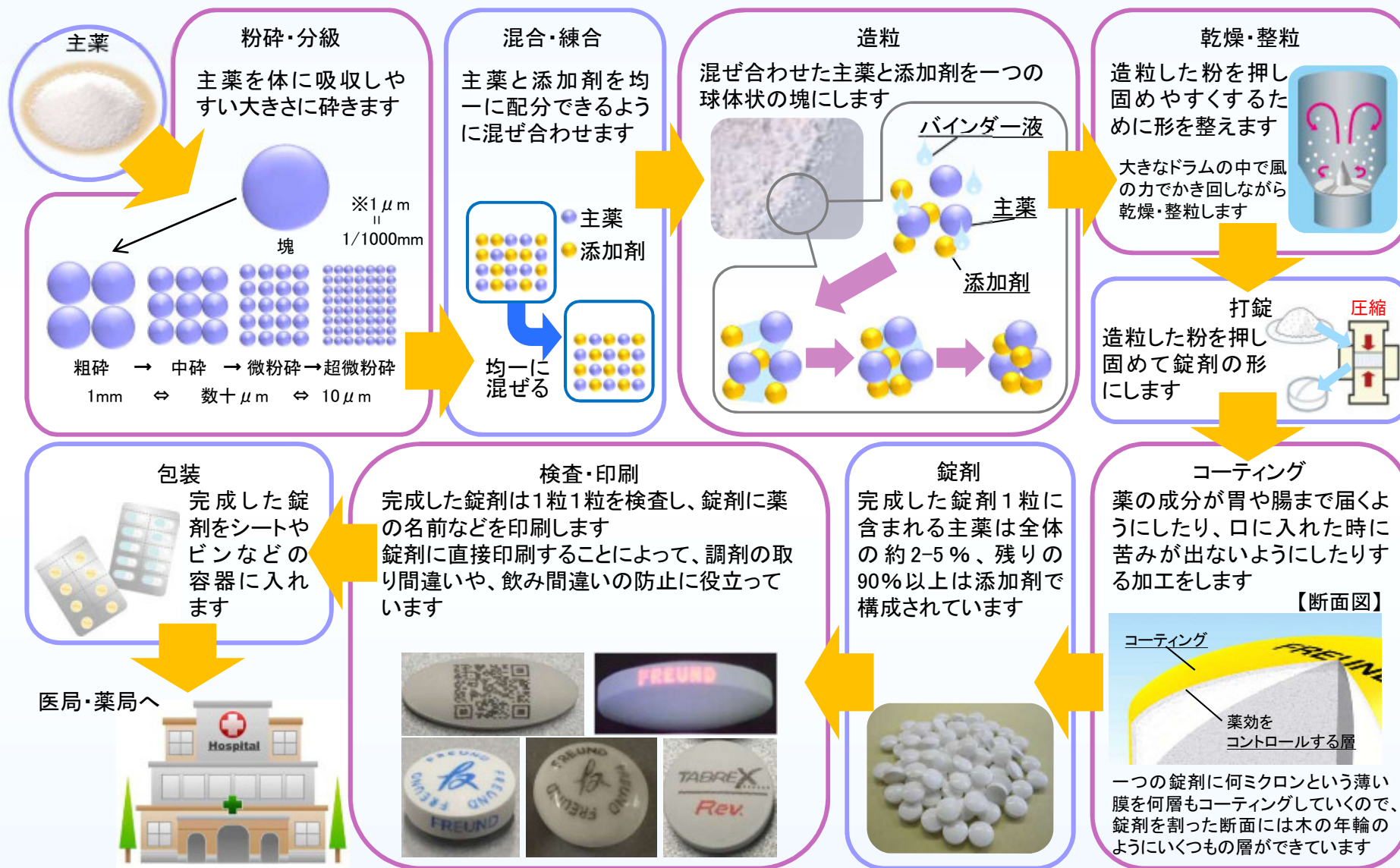


## 「ハード」と「ソフト」の融合によるユニークな付加創造価値

機械装置や化成品などの製品群「ハード」の研究・開発だけでなく、その優れた性能を実現する粒子加工技術等の製剤技術「ソフト」を有する当社グループは、「ハード」と「ソフト」を融合し、独創性豊かな自社製品群や受託加工、テクニカルサービスなどのユニークな付加価値創造を推進しています。

# グループのビジネスフィールド

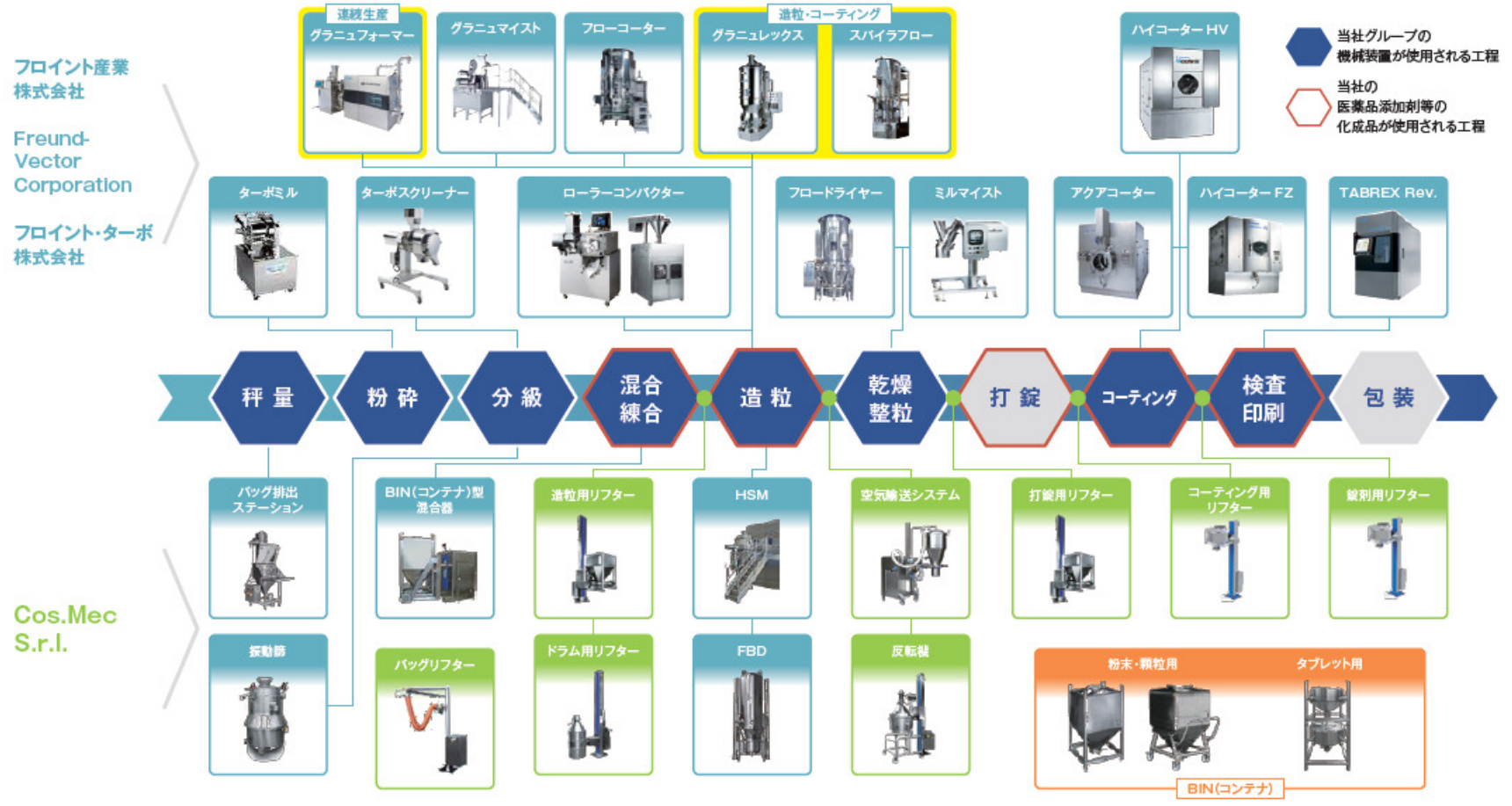
## ～医薬品(錠剤)の製造工程～



# グループのビジネスフィールド

## 医薬品の製造工程に基づくフロイントグループの事業領域

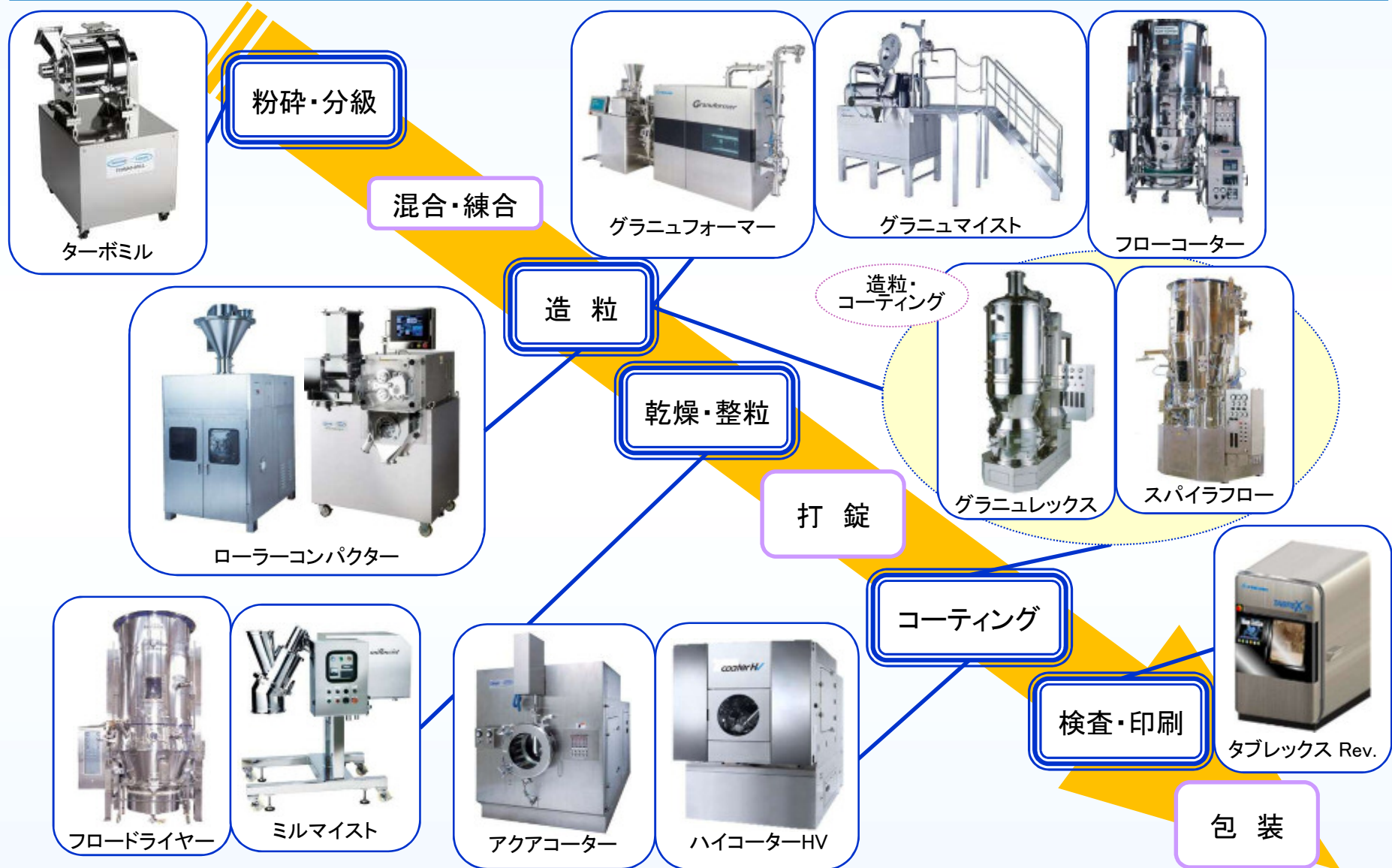
### フロイントグループのビジネスフィールド



(注) 薬剤のうち中心的な製剤である固形製剤の製造プロセスにおけるフロイントグループの関与している工程

# グループのビジネスフィールド

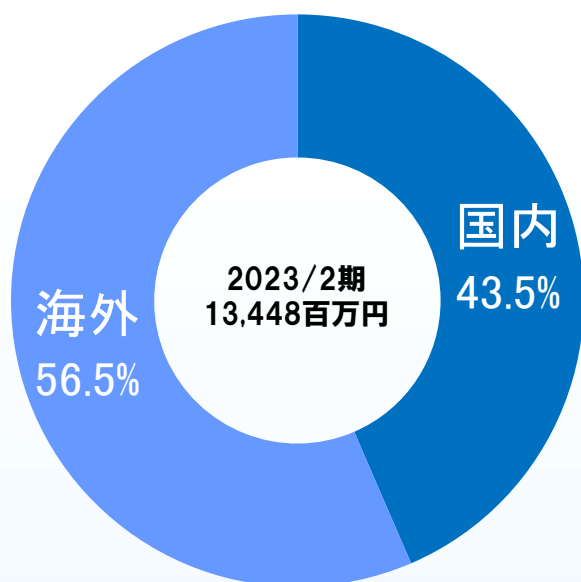
～医薬品(錠剤)の製造工程～



## 【機械部門】 医薬品会社向け造粒・コーティング装置が主力

- 機械部門は、国内向けが43.5%、海外向けが56.5%（2023年2月期実績）
- 医薬品会社向けの造粒装置やコーティング装置が主力
- 産業機械向けは主に化学業界や電池用途向け

売上構成比  
(2023/2期)



自動錠剤  
コーティング装置  
(ハイコーター HV)





## 【機械部門】非医薬関連ビジネスへの取り組み

フロイントグループは、造粒・コーティング・粉碎・分級などの技術を基礎に、医薬品のみならず、食品やその他の産業用途などの非医薬品分野にも事業領域を拡大し、人々の健康や生活の質向上に貢献するチャレンジを続けています。

グループ会社であるフロイント・ターボでは、以下の取り組みを行っております。

### リチウムイオン電池市場の進化への対応

金属類が発火の原因になりやすいLiB原料用途を視野に、業界初と言えるオール樹脂の分級機「ターボスクリーナー（Pシリーズ）」、高速混合造粒機「バランス・グラン」を開発致しました。

LiB原料はメーカーごとに異なり、蓄積したデータが使えない場合が多々あります。お客様それぞれの要求に合わせて評価試験を行い、スケールアップをしていく必要があるため、多様な要望に対応できる装置の開発を加速しております。



高速混合造粒機  
「バランス・グラン」

### 積層セラミックコンデンサ、フィルム等次世代市場への対応

LiBや積層セラミックコンデンサなどの原料用途に、湿式粉碎機「アクアターボ」の処理量アップ対応モデルを開発いたしました。この装置は次世代電池用途にも利用可能との評価試験結果が出ており、幅広い次世代ニーズへの展開が期待されます。

また、塗工機の「FEコーター」シリーズは、これから広がるSDGs関連市場への展開が期待されます。

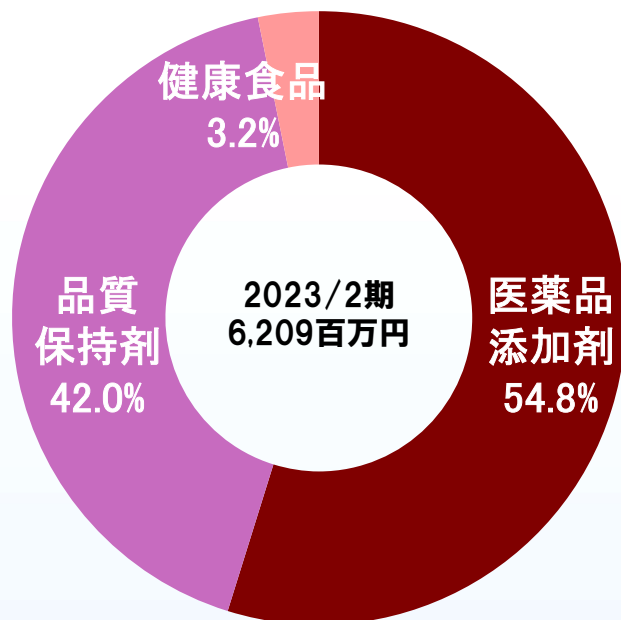


湿式粉碎機  
「アクアターボ」

# 【化成品部門】ヘルスケア関連も拡大する製品群

- 医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などで構成
- とくに後発薬向け医薬品添加剤の出荷増加が続く

売上構成比  
(2023/2期)



## 1. 医薬品添加剤

- ・直打用賦形剤
- ・吸着剤・固形化剤・流動化剤
- ・白色着色剤
- ・滑沢剤
- ・光沢剤



## 2. 食品品質保持剤

- ・アルコール蒸散剤
- ・脱酸素剤



## 3. 健康食品・他

- ・サプリメント用添加剤



---

---

## Ⅱ. 中期経営計画及び重点施策

---

---

# 第8次中期経営計画(2020年3月～2023年2月)

## 企業理念

創造力で未来を拓く

## 経営ビジョン

フロイントグループは、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します。

大切にする価値

ONE  
FREUND

Number  
One

### 特別な価値創造

それぞれの分野、事業で  
No.1を目指す

Only  
One

### 完全顧客視点

顧客、社会にとって  
Only Oneの存在を目指す

Be  
One

### ネットワーキング

グループがひとつになる

## 基本戦略

顧客の真のニーズに技術力をもって応え、  
持続的に利益成長する経営構造の実現を目指す

## 7つの経営目標

1. グループの連携
2. 完全顧客視点
3. イノベーション重視
4. グローバル経営
5. 成長戦略の実行
6. 業務改革と働き方改革の推進
7. コンプライアンス・コーポレートガバナンスの重視

# 第8次中期経営計画:7つの経営目標

## 1. グループの連携

グループ3社が一体組織としての意識を持ち、営業・開発で業務連携し、連結業績目標を達成する

## 2. 完全顧客視点

すべての面で最高の品質の製品を、お客様に満足できる価格とスピードをもって提供する

## 3. イノベーション重視

開発特化型企业として新製品開発に重点的に資源を投下するとともに開発計画の進捗管理を徹底する

## 4. グローバル経営

国内のシェアを高めつつ、顧客の海外市場シフトと海外市場の質重視のトレンドにグループ一体で対応する

## 5. 成長戦略の実行

M&A、事業アライアンス等により次の中計の基盤となる新事業の開拓、既存事業の非Organicな強化を図る

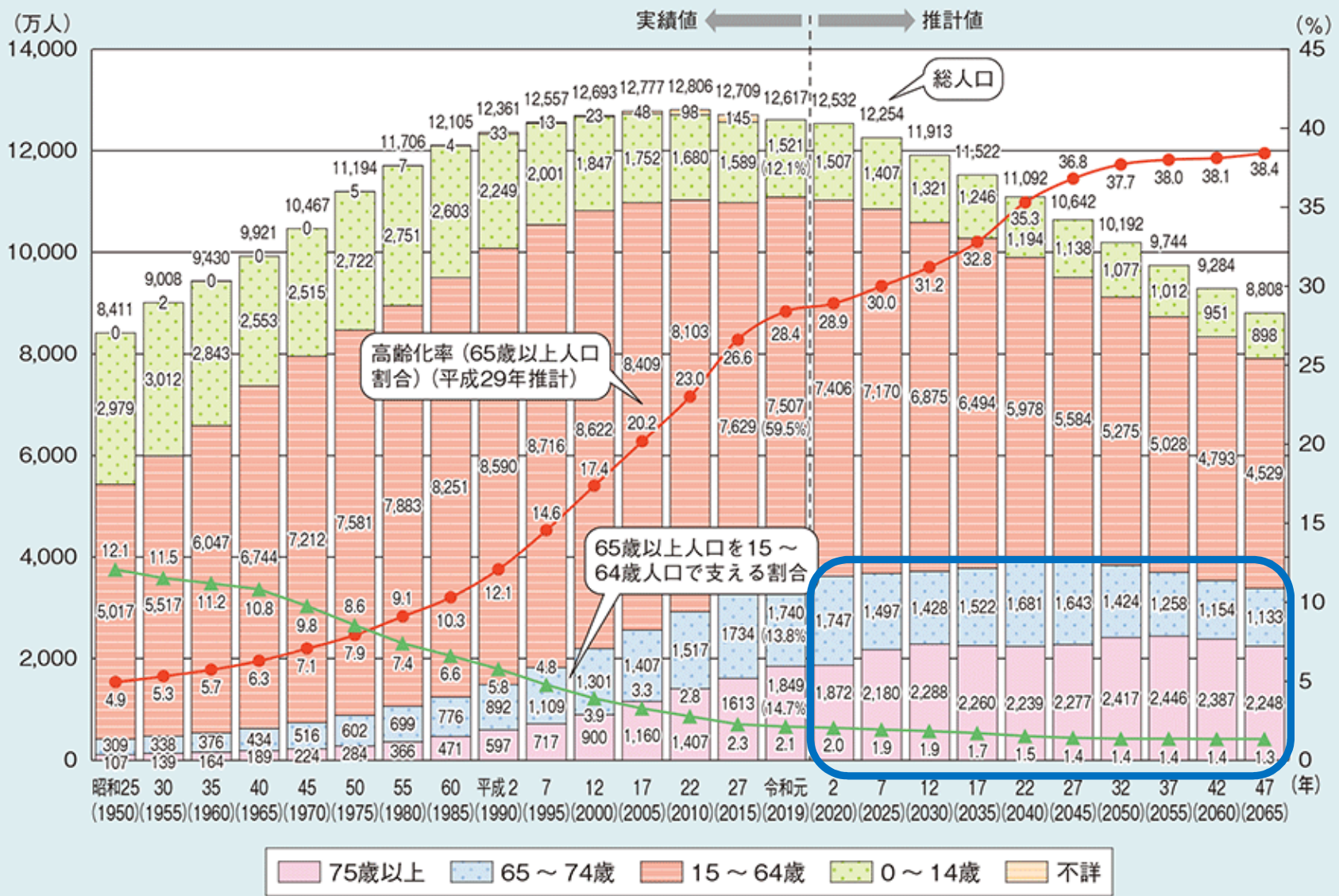
## 6. 業務改革と働き方改革の推進

非効率な仕事を排除し、働きやすい職場と高効率な企業体質を実現する

## 7. コンプライアンス・コーポレートガバナンスの重視

生産・品質管理体制の向上、内部統制の充実を図り、顧客や社会の信頼に応える健全な事業体制整備を進める

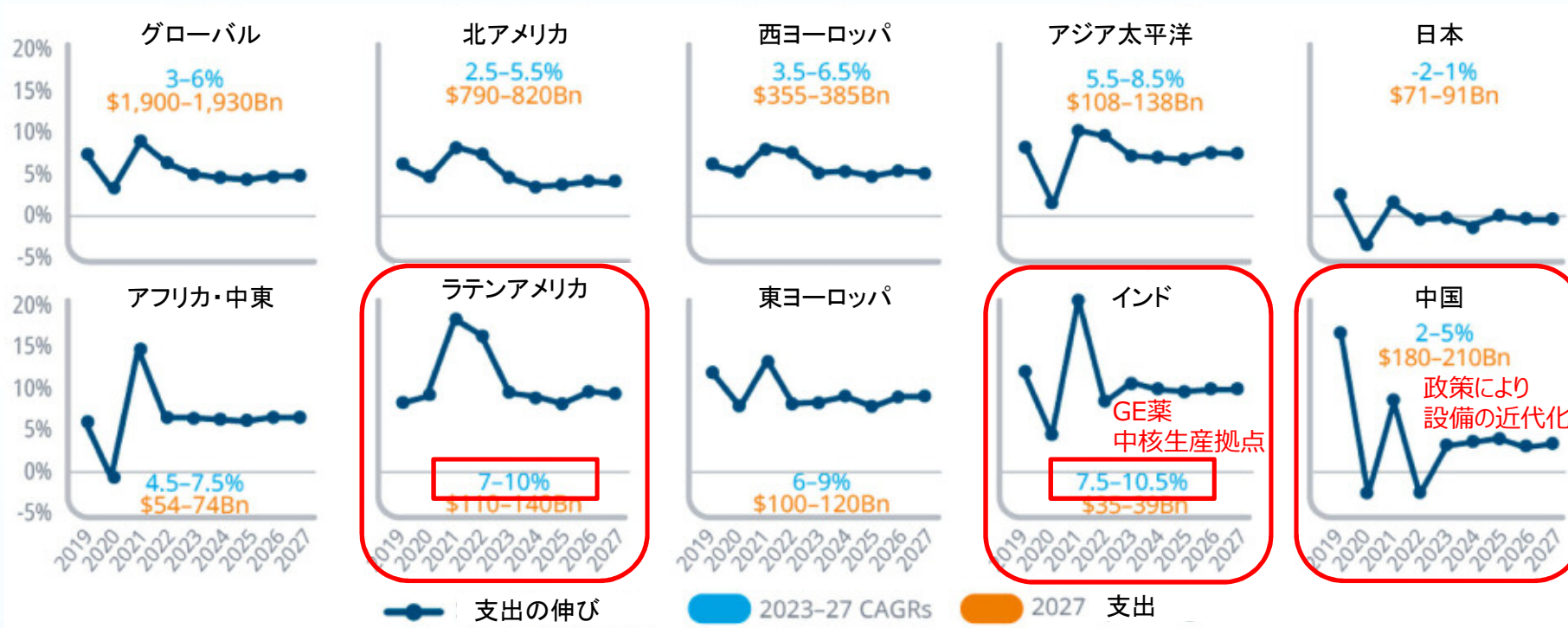
# 国内の2065年までの高齢化と人口動態の推移



# 世界の医薬品支出(2019年~2027年)

グローバルには、インド・中国を中心とした医薬品新興国市場が拡大

## ● 世界および9地域の支出成長率、合計市場 2019-2027 (USDル)



- Source: IQVIA Market Prognosis, Sep 2022; IQVIA Institute, Nov 2022.
- Notes: 2019 is included to show the impacts of the pandemic on spending growth. Asia-Pacific does not include China, India, and Japan which are reported separately.
- Report: The Global Use of Medicines 2023: Outlook to 2027. IQVIA Institute for Human Data Science, January 2023.

---

---

## III. 今期の業績予想及び株主還元

---

---



# 連結決算サマリー

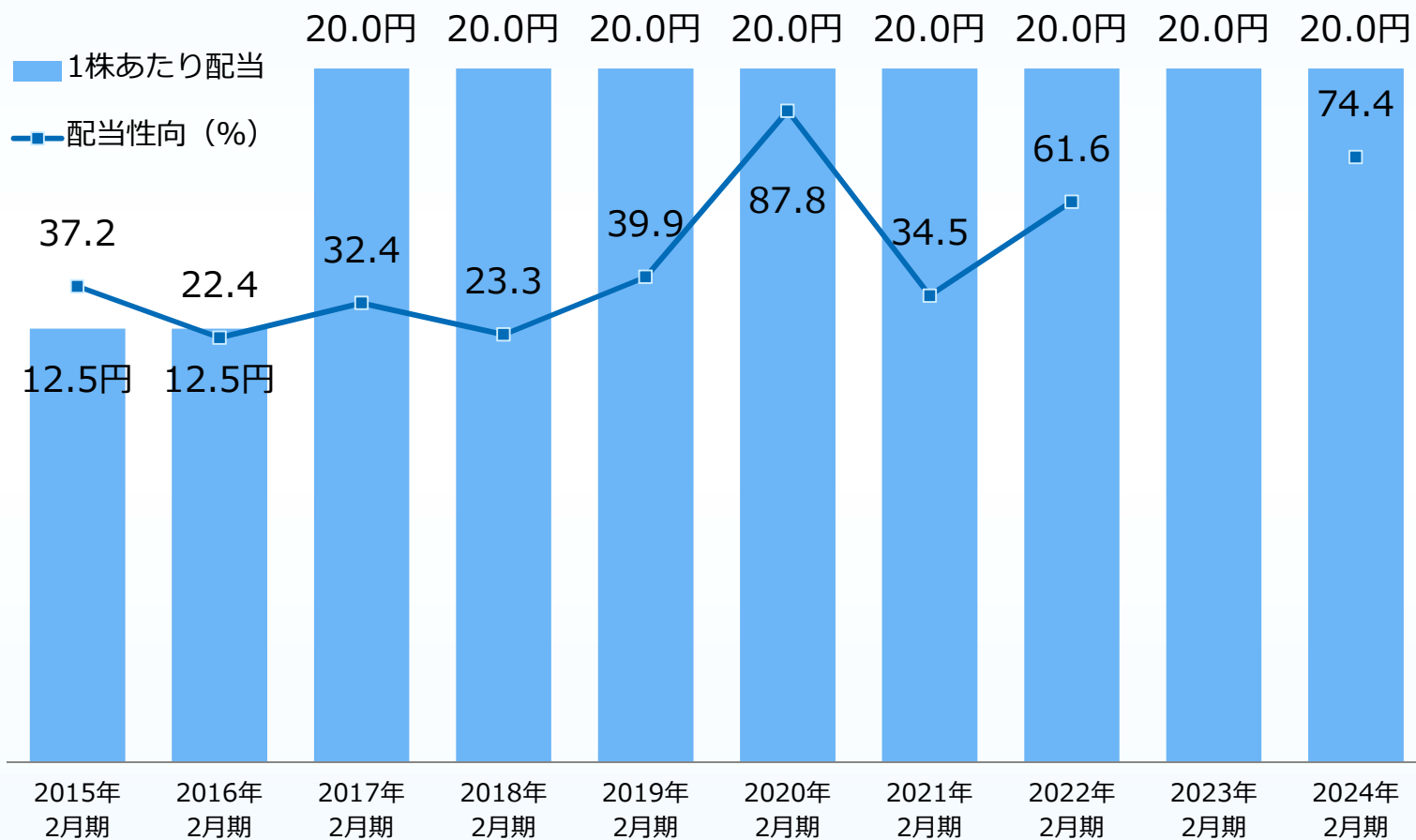
- 売上高:前年比増収、機械部門では海外子会社が為替の円安要因も加わり大きく増収したことに加え、化成品部門は医薬品添加剤、品質保持剤ともに好調を維持
- 利益:米国を中心に機械部門の部材調達長期化、出荷遅延の他、原材料価格高騰から減益特別損失として、Cos.Mec.S.r.l.にかかわるのれん等について減損損失約9億円を計上

(単位:百万円)

	2022/2月期 実績	2023/2月期 実績	前年同期比増減		2024/2月期 (期初予想)
			金額	%	
売上高	17,632	19,658	+2,026	+11.5	20,000
営業利益	981	451	△530	△54.0	700
経常利益	1,032	559	△473	△45.8	650
当期純利益	543	△538	△1,081	—	450
一株純利益(円)	32.46	△32.15	△64.61	—	26.87
減価償却費	570	565	△5	△0.9	-
研究開発費	580	622	+42	+7.2	-
配当金(円/年間予想)	20.00	20.00	-	-	20.00
[ご参考]機械受注残高	10,574	12,826	+2,252	+21.3	-

# 配当予想

## ■ 一株当たり配当金は20円(普通配)



(注) 2023年2月期の連結配当性向については、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。  
2016年3月1日付けで株式分割1対2を実施しており、2016年2月期以前の配当金は分割調整後の金額です。

# 株主優待

## 中間期末株主様に 「オリジナル・クオカード」を謹呈しています。



2023年2月期  
カードデザイン

### 【優待内容】

所有株式	贈呈内容
1年以上	クオカード 1,000円分
3年以上	クオカード 2,000円分

毎年8月31日現在、**1単元(100株)**以上保有で当社株主名簿に記載または記録された株主様が対象となります。

ご参考: 株価784円(2023年9月6日終値)

配当利回り: 2.55% ※

優待込: 3.83% ※

		100株	300株	500株
配当金(年間)	1株あたり配当金=20円	2,000円	6,000円	10,000円
株主優待(年間)	(1年以上3年未満継続保有)クオ・カード		1,000円分	
	(3年以上継続保有)クオ・カード		2,000円分	
ご購入予算	1株=784円で計算	78,400円	235,200円	392,000円

※1単元(100株)保有の場合

# 株価参考資料 (2023/09/06 終値)

東証STD 6312 機械

## フロイント産業(株)

# 784

(前日比 +74(+10.42%)

前日終値 (2023/09/05)	710
始値	815
高値	816
安値	759
出来高	507,300株
売買代金	399,352千円
値幅制限 (2023/09/06)	560~860

### 参考指標

時価総額	14,425百万円
発行済み株式数 (2023/09/06)	18,400,000株
配当利回り (会社予想)	2.55%
1株配当 (会社予想) (2024/02)	20.00
PER (会社予想)	(連) 29.2倍
PBR (実績)	(連) 0.95倍
EPS (会社予想) (2024/02)	(連) 26.87
BPS (実績) (2023/02)	(連) 827.39
最低購入代金	78,400
単元株数	100株
年初来高値 (23/09/06)	816
年初来安値 (23/07/07)	635



---

---

## IV. 參考資料

---

---

# 要約損益計算書(第59期 期末)

- 国内外とも原材料価格高騰に伴い原価率上昇、粗利率は低下
- 販管費は大きく増加するも、円安進行による円貨換算額増加が最大の要因
- 営業外収益として為替差益を大きく計上するも、特別損失としてのれん等の減損損失計上

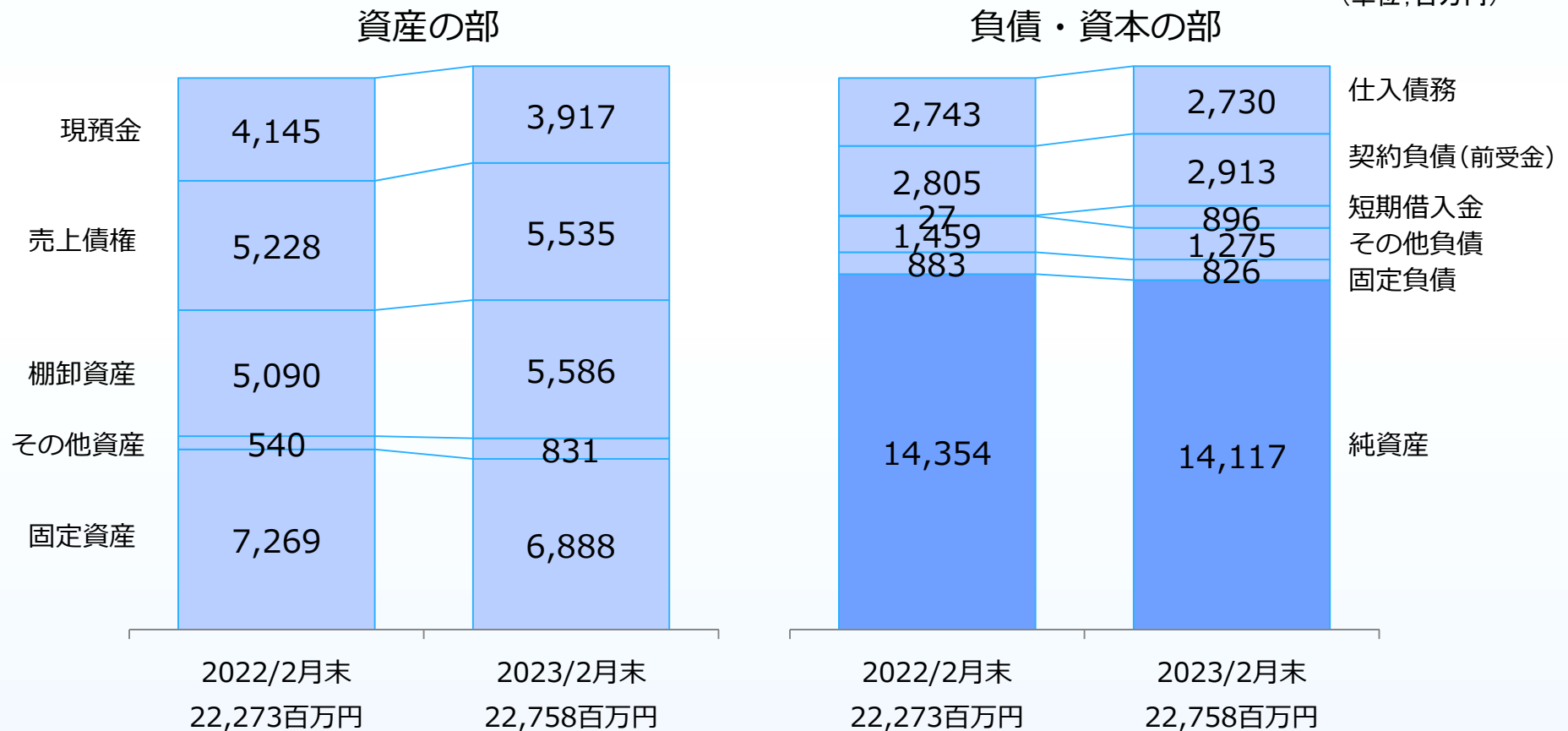
(単位:百万円)

	2022/通期		2023/通期		前年同期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	%
売上高	17,632	100.0	19,658	100.0	2,026	+11.5
売上原価	11,620	65.9	13,665	69.5	2,044	+17.6
売上総利益	6,011	34.1	5,993	30.5	△18	△0.3
販管費	5,030	28.5	5,541	28.2	+511	+10.2
営業利益	981	5.6	451	2.3	△530	△54.0
営業外損益	50	0.3	107	0.5	56	+114.0
経常利益	1,032	5.9	559	2.8	△473	△45.8
特別損益	△204	△1.2	△965	△4.9	△761	-
税引前利益	828	4.7	△406	△2.1	△1,234	-
当期純利益	543	3.1	△538	△2.1	△1,081	-

# 要約貸借対照表(第59期 期末)

- 米国子会社において売掛金、仕掛品増加とともに、短期借入金が増加
- のれん、無形資産等の減損損失計上により固定資産は減少
- 純資産は減少するも、自己資本比率は引続き高水準を維持(62.0%)

(単位:百万円)



# 要約キャッシュ・フロー計算書(第59期 期末)

(単位:百万円)

	2022/2月期	2023/2月期
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	701	△196
税引前利益	828	△406
減価償却費	570	565
減損損失	75	933
売上債権の増減額(△は増加)	△299	△171
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,430	△54
仕入債務の増減額(△は減少)	△154	△78
法人税等の支払額	△394	△412
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	△680	△666
有形固定資産の取得による支出	△460	△269
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	△427	451
短期借入金	△30	852
配当金の支払額	△335	△333
<b>現金及び現金同等物 増減額</b>	△353	△228
<b>現金及び現金同等物 期末残高</b>	4,145	3,917



# フロントグループ ディスクロージャーポリシー

## 1. 情報開示の基本方針

当社は、広く社会に信頼される企業として、経営の透明性向上を重要な責務のひとつと考えています。その考えに基づき、すべてのステークホルダーの皆さまに、会社情報の公平かつ適時適正な開示を継続的に行います。

## 2. 情報開示の基準

当社は、会社法、金融商品取引法などの関係法令および当社が上場する証券取引所が定める適時開示に関する諸規則にしたがって、情報開示を行います。

当社は、関係法令および適時開示に関する諸規則に該当しない情報であっても、株主・投資家の皆さまの投資判断にとって必要であると考えられる情報については、積極的に開示いたします。

## 3. 情報開示の方法

当社は、東京証券取引所の提供する適時開示情報伝達システム(Timely Disclosure network、以下「TDnet」という)を通じて情報を開示いたします。TDnetにより開示した情報は、情報開示の適時性・公平性に配慮し、速やかに当社のインターネットホームページに掲載いたします。

そのほかの情報についても、適時開示の趣旨に則り、プレスリリース、当社のインターネットホームページへの掲載などにより公平かつ迅速に開示いたします。より多くのステークホルダーの皆さまに分かりやすい開示を行うため、開示情報は日本語とあわせ、その英訳の開示に努めます。

## 4. インサイダー取引の未然防止

当社は、内部情報の適切な管理および株式などの売買などについて遵守すべき基本事項を社内規則に定め、インサイダー取引規制の周知徹底と株式などの売買管理体制の適切な運用により、インサイダー取引を未然に防止します。

## 5. 沈黙期間

当社は、決算情報の漏洩を防止し、法令遵守および公平性を確保するため、各四半期決算期日の翌日から当該決算発表日までを「沈黙期間」と定めます。当該期間中は、決算に関連するコメントや質問・照会に対する回答は差し控えさせていただきます。ただし、業績が予想と大きく乖離する可能性がある場合には、適時開示に関する諸規則に従い適時適正に開示いたします。

## 6. 将来予測について

当社が開示する情報の中には、業績予想以外にも戦略、事業計画などの将来予測に関する情報が含まれておりますが、これらの情報は作成段階において入手可能な情報をもとに判断したものであり、その後の経済情勢や市場環境の変化などによって、将来予測は大きく異なる可能性があります。

(2017年3月27日制定)

# IR活動の方針

## 株主・投資家との建設的な対話に関する方針

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、株主・投資家の皆様との建設的な対話を積極的に進めます。当社の経営方針や経営状況、企業文化をわかりやすく説明し、株主・投資家の皆様のご理解を得て、「FREUNDファン」として継続的にご支援いただけるように努めます。

### 1. 推進体制株主・投資家の皆様との対話

取締役CFOが統括し、IR担当部署の管理本部経理部が担います。

株主の皆様との対話を促進するため、社内の関連部門は、開示資料の作成・審査や必要な情報の共有など、積極的に連携を図り、公正且つ迅速に情報開示を行います。

### 2. ステークホルダーとの対話

当社は期末及び第2四半期の決算説明会(第1・3四半期はスモールミーティング)を実施し、その情報は当社ウェブサイトにて公開します。また、中長期経営計画を策定した際には、経営戦略や経営計画についてわかりやすく説明いたします。さらに、機関投資家への訪問も積極的に実施し、経営方針や業績の説明を行います。また、証券会社主催の投資家フォーラムや個人投資家説明会等にも参加します。

株主通信やFREUND Report(統合報告書)の発行、ウェブサイト専用ページ(<https://www.freund.co.jp/ir/>)の開設などにより、事業や財務情報とともに財務諸表に載らない資産(見えない資産)を紹介することで当社グループの企業価値を正しくご理解いただけるように、情報開示の充実に努めます。

### 3. 株主・投資家からの意見を社内へフィードバックする仕組み

株主・投資家の皆様との対話において把握された意見は、社長、取締役や関係各部に適宜報告し、情報を共有します。

### 4. インサイダー情報の管理

各四半期の決算期末日より決算発表日までの期間はサイレント(沈黙)期間とし、投資家の皆様との対話を制限しています。

インサイダー情報については、社内の内部情報管理・内部者取引規制に関する規程に従い、情報管理の徹底を図っています。

**〈お問い合わせ先〉**  
**フロイント産業株式会社**  
**管理本部 経理部**

**TEL:03-6890-0747**  
**FAX:03-6890-0870**  
**E-Mail : ir@freund.co.jp**

**当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.freund.co.jp>**

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。

従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。